

2024. 9. 13

# 医療マネジメントにも関与する 口腔と嚥下機能

市村歯科医院

市村 和大

# COI開示

発表者：市村和大

- ※発表に関連し、開示すべきCOI関係にある企業などはありません
- ※本日の発表において特に引用が記載が無い症例はすべて自験例です。

# 要介護高齢者の口腔内











# 口腔カンジダ症



榎本昭二, カラーアトラス 口腔粘膜病変より引用

# 令和6年介護改定

口腔管理が強化されるようになりました

# 施設（老健や特養）

## 【口腔衛生管理の強化】

### （施設側）

- ・施設は口腔衛生管理の計画書を作る
- ・施設は別紙様式6-3を使用し、入所者全員に対して毎月一回、項目1～8についてアセスメントを行う

### （協力歯科医側）

- ・年2回助言や指導をおこなう
- ・項目1～8に一つでもチェックが付いた場合、歯科医師または歯科衛生士が口腔内を確認する

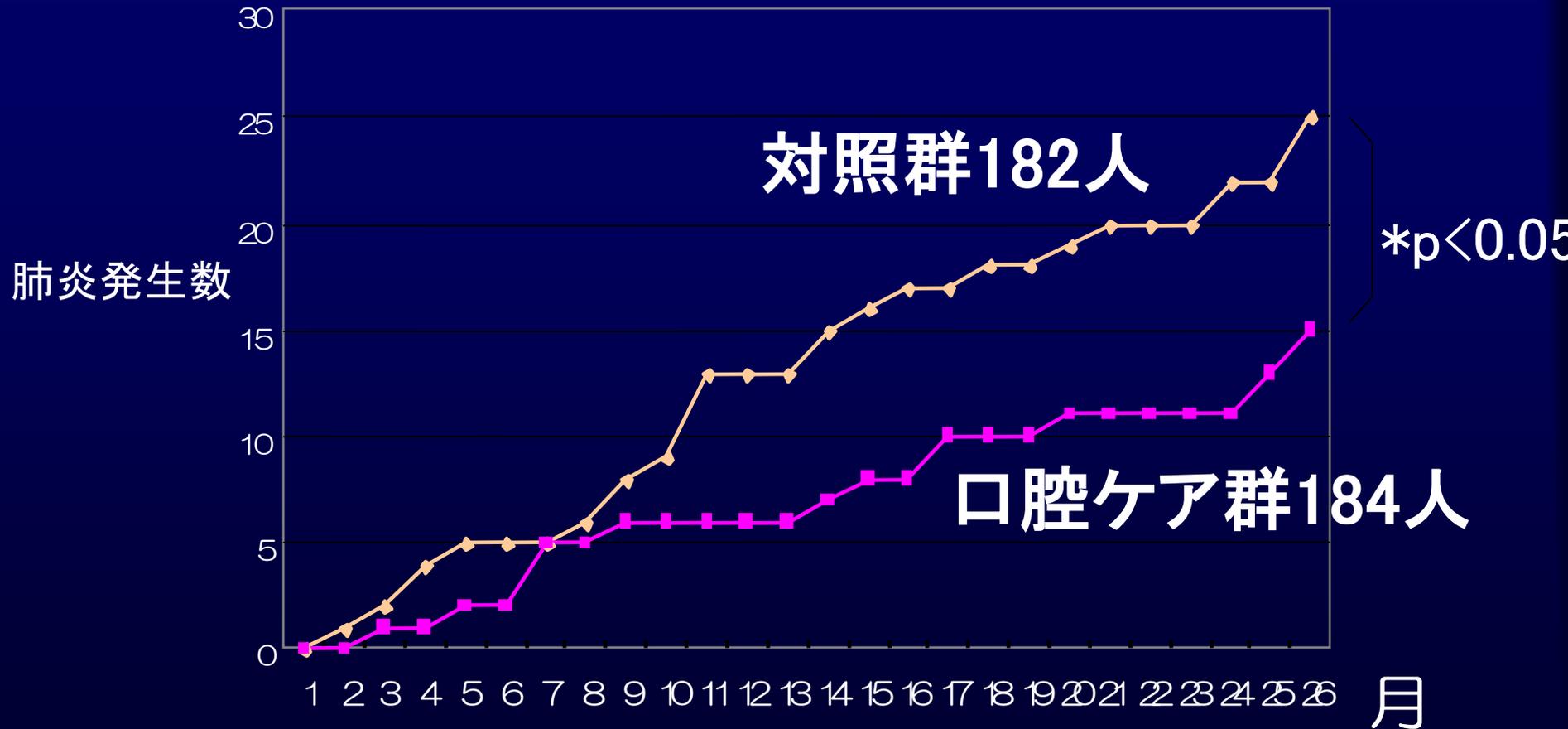
# 在宅関係者

【口腔連携強化加算】50単位(要届出)

- ・訪問介護、訪問看護、訪問リハ、短期入所系の事業所が対象
- ・別紙様式6でアセスメントを行い、訪問診療を行っている歯科医院とケアマネに、そのアセスメント結果を提供すると算定可能
- ・歯科医院が居宅療養管理指導を算定している、この加算は算定できないが、初回月のみは、居宅療養管理指導が算定されていても、算定可能

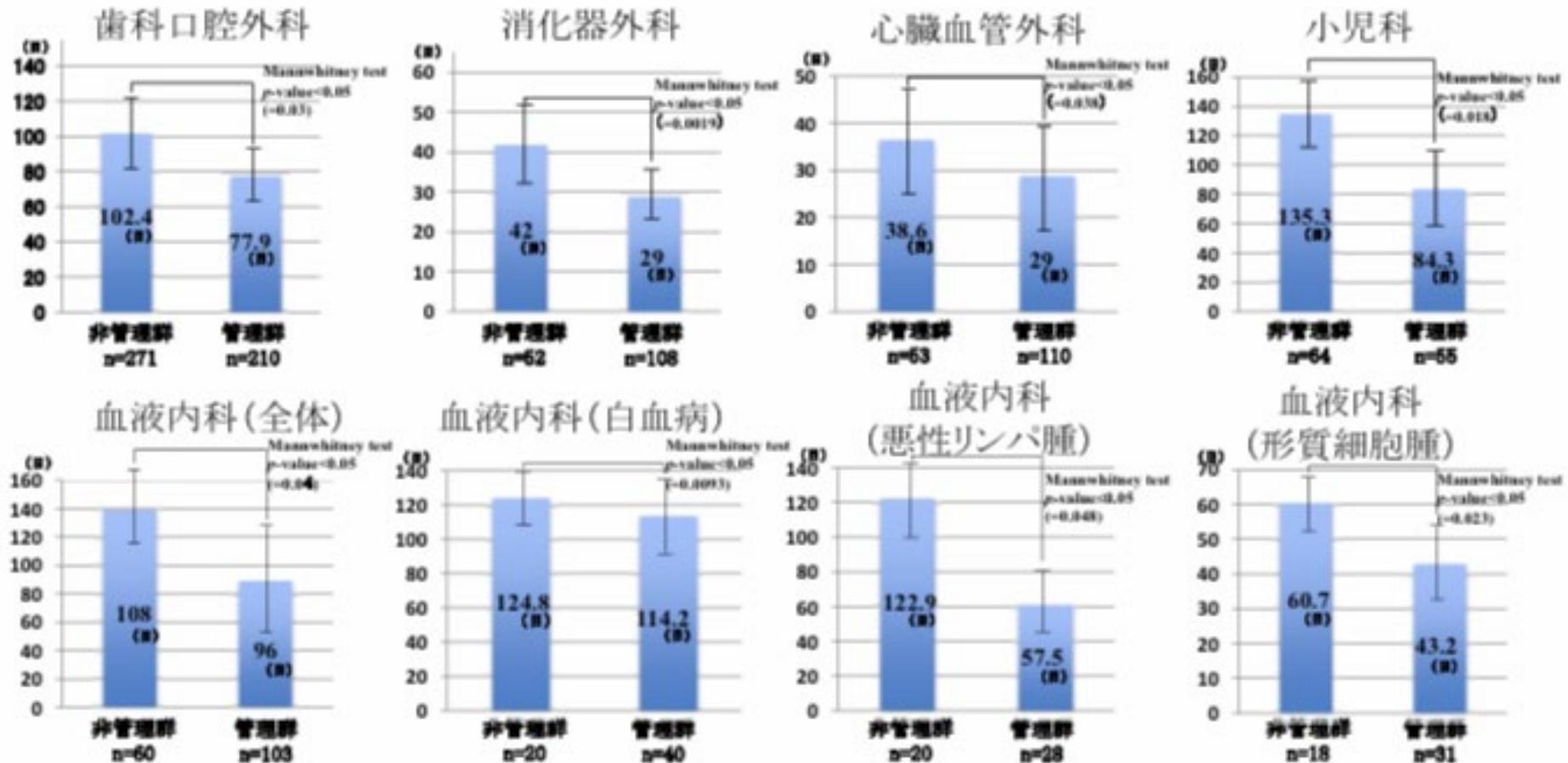
口腔ケア意義

# 口腔ケアと誤嚥性肺炎



Yoneyama T, et al., 1999.

# 口腔機能の管理による在院日数に対する削減効果



- いずれの診療科においても在院日数の削減効果が統計学的に有意に認められ、その効果はほぼ10%以上あることが明らかになった。

(中医協：平成25年11月22日第259回中央社会保険医療協議会総会提出資料の一部)

# 口腔管理の経済的効果

合計人数85名の介護老人保健施設で調査

- ① 歯科による月一回スケーリングなどを行った群25名
- ② 歯科による月一回の定期介入がなかった群60名

一年間の間に肺炎により受診した人数は

- ①では25名中1名(4%) ※うち1名入院(4%)
- ②では60名中28名(46.7%) ※うち14名入院(約23.3%)

**受診率の差が約12倍、入院率の差は約6倍という結果に！**

しかしながら口腔ケアとは汚れを取るだけではない!!

口腔機能や嚥下機能を向上させ、  
口腔衛生状況を悪化させにくい環境  
を作ることも重要!!

# 非経口摂取者の口腔内





# 経口摂取の意義

経管栄養利用者に対し、

- ・口腔ケアのみの群
- ・口腔ケアに加え週一回のゼリー摂取を行った群

これらを比較すると、ゼリーを摂取していた群の方が肺炎罹患回数が減少

# 口腔衛生環境・摂食嚥下機能に 影響する薬剤

# 嚥下機能を低下させる薬剤

- 抗うつ薬
- 睡眠薬・抗不安薬
- 抗精神病薬

# 抗うつ薬

- 三環系や四環系の抗うつ薬は口腔乾燥や意識レベルの低下などにより嚥下障害を引き起こす恐れがある。(抗うつ薬でもSSRIやSNRIは口腔乾燥はあるものの嚥下障害を起こしにくい。)

# 睡眠薬・抗不安薬

- ベンゾジアゼピン系は意識レベルの低下や、嚥下関連筋群の筋弛緩作用も示す。
- 非ベンゾジアゼピン系といわれる、ゾルピデム(マイスリー)やエスゾピクロン(ルネスタ)などのZ薬は意識レベル低下は起こすが、筋弛緩作用はない。
- 新しいタイプの睡眠薬であるラメルテオン(ロゼレム)やスボレキサント(ベルソムラ)は嚥下障害を起こしにくい。

# 抗精神病薬

- パーキンソニズム(錐体外路症状)を生じさせたり、嚥下・咳反射を弱めるおそれがある。
- また抗精神病薬は定型(従来型)と非定型に分けられ、非定型の方が副作用が少ないとされているが、その非定型でさえも高齢者においては、嚥下障害の原因なることが意外と多いといわれている。

# 食欲を低下させる薬剤

- メマンチン塩酸塩(メマリー)
- 睡眠薬・抗不安薬
- 抗うつ薬
- プレガバリン(リリカ)
- ビスホスホネート製剤
- 鉄剤
- ステロイド

# メマンチン塩酸塩（メマリー）

- アルツハイマー型認知症の治療薬。抑制系の抗認知症薬であるため、めまいや傾眠の副作用があり、それにより食欲の低下が起こることがある。
- 認知症の終末期で、効果があまり期待できなくなったときは処方の見直しが必要。

# 睡眠薬・抗不安薬

- 特にベンゾジアゼピン系では効果が長いものがあり、日中傾眠がちになり食欲低下につながることもある。
- 以前は大丈夫でも、体重減少などにより、前日に服用した睡眠薬の持ち越し効果が出ることがあるため注意。

# 抗うつ薬

- 三環系・四環系の抗うつ薬は傾眠により食欲低下の原因となることがある。

野原幹司, 認知症患者さんの病態別食支援

# プレガバリン(リリカ)

- 神経障害性疼痛に対して用いられる薬。  
傾眠の副作用があるため、それにより食欲が低下することがある。

野原幹司,認知症患者さんの病態別食支援

# ビスフォスフォネート製剤

- 骨粗鬆症の薬。服薬方法が「空腹時に大量の水(180cc程度)で飲む」というのが基本。
- しかしながら高齢者では大量の水で服用するのが困難なため、食道や胃で停滞して不快感などをきたしやすく、それにより食欲低下につながることがある。
- 口腔内で停滞すると重度の粘膜炎をおこすので注意。

野原幹司,認知症患者さんの病態別食支援

Kharazmi M, et al.,2012

上田順宏ほか,2020

# ビスホスホネート製剤の口腔内停滞例



# 鉄剤

- 貧血の薬だが、副作用に食欲不振や下痢、便秘などの胃腸障害がある。

# ステロイド

- ステロイドの長期使用により、口腔カンジダ症が発症し、それにより味覚障害となり食欲不振につながることがある。

Roland NJ, et al.,2004.

山崎裕ほか,2011.

# 本日の参考書籍

「認知症患者さんの病態別食支援」

著者：野原幹司

出版：メディカ出版

定価：2600円

# 症例

## 〈依頼内容〉

食事の際にむせがみられる

## 〈症状〉

ムセ(+)痰(+)熱(+)

## 〈既往歴〉

統合失調症

## 〈その他〉

・主食:全粥 副食:ペースト食

・飲み物:トロミ中水分

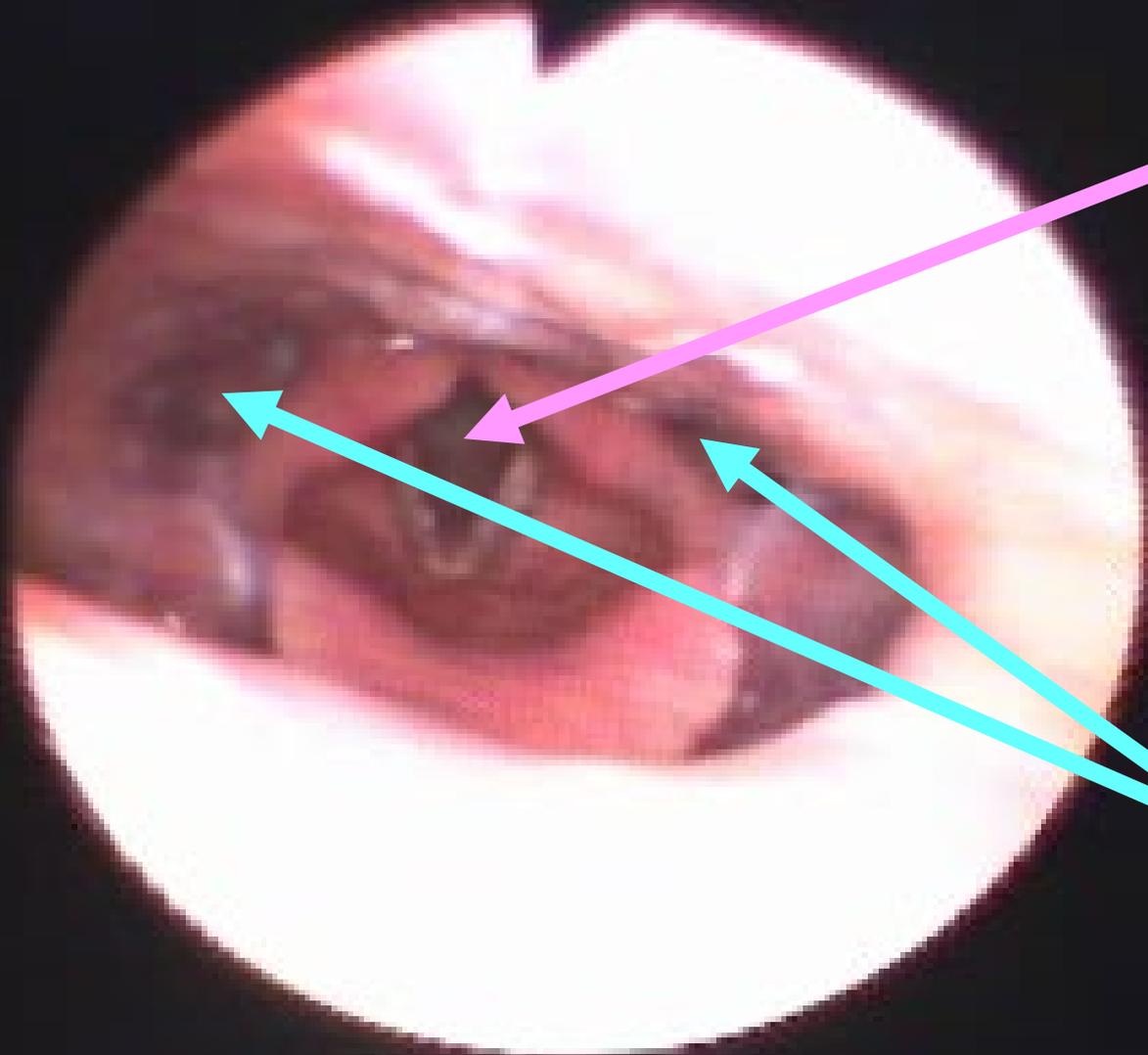
## 〈服薬内容〉

ブロナンセリン24mg/day(非定型抗精神病薬)

ジアゼパム2mg/day(ベンゾジアゼピン系)

動画

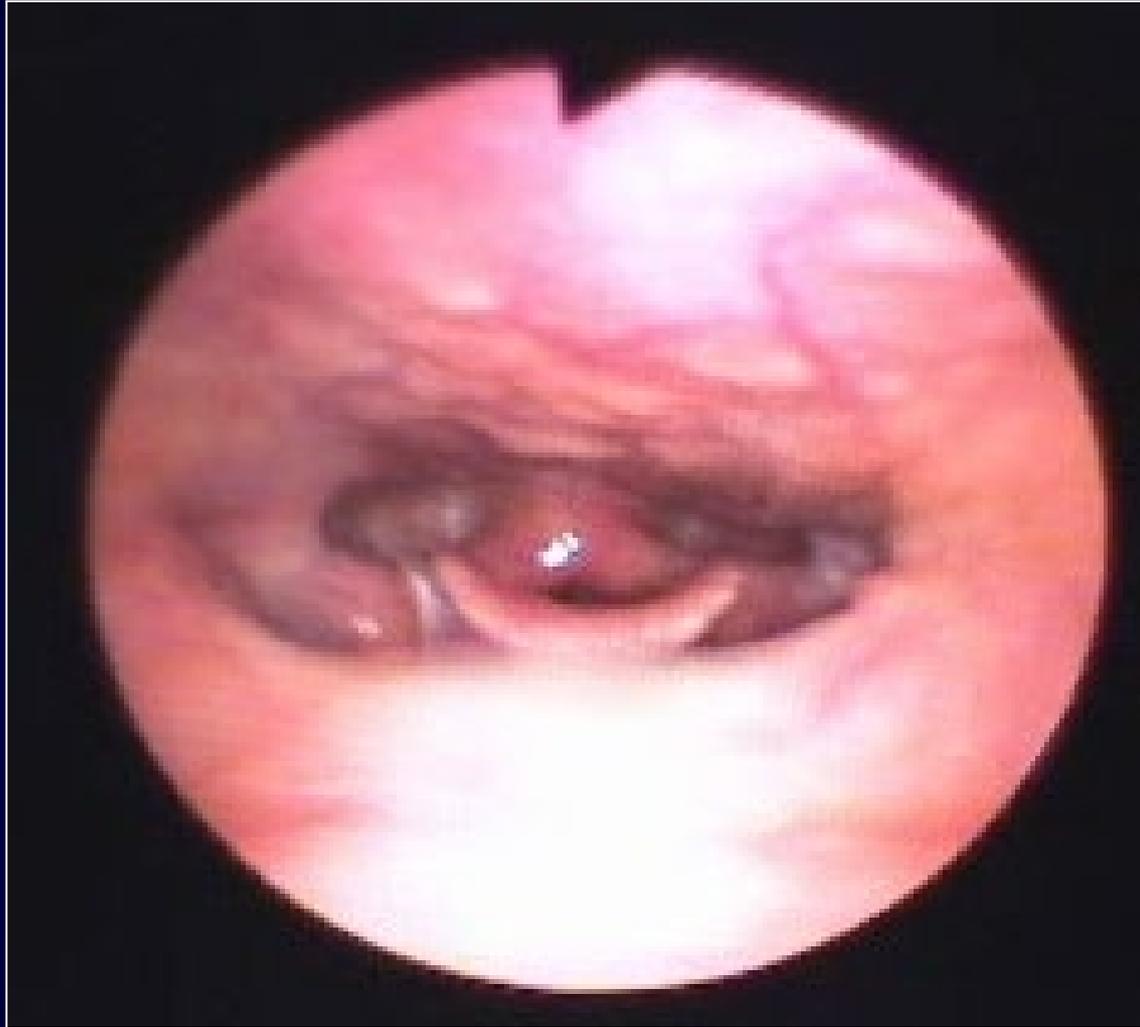
# 内視鏡の見方



気管の入り口

食道の入り口

# 内視鏡で見た咽頭



正常嚥下

# 症例

## 〈依頼内容〉

食事の際にむせがみられる

## 〈症状〉

ムセ(+)痰(+)熱(+)

## 〈既往歴〉

統合失調症

## 〈その他〉

・主食:全粥 副食:ペースト食

・飲み物:トロミ中水分

## 〈服薬内容〉

ブロナンセリン24mg/day(非定型抗精神病薬)

ジアゼパム2mg/day(ベンゾジアゼピン系)

動画

# この症例のその後の経過

- ブロナンセリンやジアゼパムの休薬や減薬を打診するも応じてもらえず
- 様々な対策をとったが、結局は誤嚥性肺炎になり、肺炎治療と胃瘻造設目的で主治医の病院へ入院
- 経口摂取が完全に不可能な状況まで低下してしまい、服薬も不可能に
- その結果、嚥下機能が劇的に改善し、三食常食で経口摂取可能となり退院へ
- 今ではADLもつかまらずに歩行可能なまで回復



**ご清聴ありがとうございました**